

地域保健

11

2019

●特集

高齢者の保健事業と介護予防の 一体的実施に向けて





6

【特集】

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に向けて

8 座談会「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施—保健師の役割を中心に」

●出席者

津下一代さん（あいち健康の森健康科学総合センター）＝司会
飯島勝矢さん（東京大学高齢社会総合研究機構）

秋山美紀さん（慶應義塾大学）
鎌田久美子さん（日本看護協会）
山田祐子さん（全国保健師長会、南相馬市健康福祉部）

24 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の背景と概要

越田 拓（厚生労働省保険局）

28 後期高齢者の質問票について

平野真紀（厚生労働省保険局）

30 「通いの場」づくりによる介護予防施策への期待と展望

井手一茂（長谷川病院）、近藤克則（千葉大学予防医学センター）

34 フレイルの概念について～公衆衛生的視点から～

北村明彦（東京都健康長寿医療センター研究所）ほか

40 国保データベースの活用

鎌形喜代実（国民健康保険中央会）

44 【事例 1 船橋市】介護予防事業をプラットフォームに予防事業を一体的に実施

高橋日出男（船橋市保健所）

50 【事例 2 東近江市】部局や関係機関の壁を越えた保健事業とデータ共有

夏原善治（東近江市健康福祉部）

56 【事例 3 群馬県後期高齢者医療広域連合】皆がつながる！健康寿命の延伸に向けた一体的な実施を目指して！

太田百合子（群馬県後期高齢者医療広域連合）

61 【事例 4 群馬県】市町村や関係機関と連携しフレイル対策などを推進

神山智子（群馬県健康福祉部）

② ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ！▶ 田中良佳さん（青森県上十三保健所 指導予防課）

⑦⑥ ピープル ▶ 副島賢和さん（昭和大学大学院保健医療学研究科准教授、昭和大学附属病院内学級担当）

⑨⑩ 情報BOX

⑨④ 総合目録

⑨⑥ 次号予告／奥付

連 載

⑥⑥ いのちに向き合う《第4回》／浜垣誠司

⑥⑧ 生活習慣を変えるコミュニケーション技術
《第4回》／磯村 毅

⑦⑦ 罪を犯した人の生活と健康支援《第4回》／船山健二

⑦⑦ 虐待予防は母子保健から《第4回》／鷺山拓男

⑧⑧ ESSAY 国際保健《第34回》／松田正己

⑧⑧ 保健師のための関心ケア《第85回》／藤本裕明

⑧⑧ 中臣さんの環境衛生ウォッチング《第70回》／中臣昌広

ひよこ

ホップ★ステップ★ジャンプ!

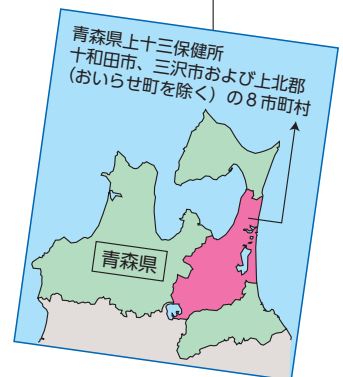


田中良佳さん

たなか・はるか

●青森県上十三保健所指導予防課

仕事をすることは、人を助けること
将来は、誰からも愛され、信頼される
保健師を目指して



保健所の前には現代アート作品が並び官庁街通りが広がる。田中さんはここをって地域の住民のもとへと向かう

文＝白井美樹（ライター） 写真＝神保 誠



特集

高齢者の保健事業と介護予防の 一体的実施に向けて

来年度から高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施が始まる。国保データベースを活用した地域の健康課題の分析、それに基づく予防活動の展開などが予想される中、保健師には一体的事業の企画・調整・分析、アウトリーチ支援などが期待されている。

特集では、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の全体像を整理するとともに、通いの場、国保データベース、フレイルの概念、後期高齢者の質問票などのトピックを解説。好事例として、市町村、都道府県、後期高齢者医療広域連合の取り組みを紹介する。座談会では一体的実施における保健師の役割を中心に考える。

P 8

座談会

高齢者の保健事業と介護予防の 一体的実施 ～保健師の役割を中心に～



秋山美紀さん



飯島勝矢さん



津下一代さん



山田祐子さん



鎌田久美子さん

- (出席者) ◎津下一代さん (あいち健康の森健康科学総合センター) =司会
◎飯島勝矢さん (東京大学高齢社会総合研究機構)
◎秋山美紀さん (慶應義塾大学)
◎鎌田久美子さん (日本看護協会)
◎山田祐子さん (全国保健師長会、南相馬市健康福祉部)

P24 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の背景と概要
◎越田 拓（厚生労働省保険局）

P28 後期高齢者の質問票について
◎平野真紀（厚生労働省保険局）

P30 「通いの場」づくりによる介護予防施策への期待と展望
◎井手一茂（長谷川病院）、近藤克則（千葉大学予防医学センター）

P34 フレイルの概念について ～公衆衛生的視点から～
◎北村明彦（東京都健康長寿医療センター研究所）ほか

P40 国保データベースの活用法
◎鎌形喜代実（国民健康保険中央会）

P44 〈事例 1〉 船橋市
介護予防事業をプラットフォームに予防事業を一体的に実施
◎高橋日出男（船橋市保健所）

P50 〈事例 2〉 東近江市
部局や関係機関の壁を越えた保健事業とデータ共有
◎夏原善治（東近江市健康福祉部）

P56 〈事例 3〉 群馬県後期高齢者医療広域連合
皆がつながる！健康寿命の延伸に向けた一体的な実施を目指して
◎太田百合子（群馬県後期高齢者医療広域連合）

P61 〈事例 4〉 群馬県
市町村や関係機関と連携しフレイル対策などを推進
◎神山智子（群馬県健康福祉部）



副島賢和

さん

●昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授
昭和大学附属病院内学級担当

一人じゃない。どんな感情も持っていていい。自分は自分のままでいい。生まれてきてよかった。そう思えたら、きっと不安は少なくなる。

「入院中の子どもたちに必要なことは何だと思いますか」と、副島賢和さんは問いかける。東京都の教員として25年間を過ごし、その最後の8年間は昭和大学病院の内学級「さいかち学級」の担任として務めた。教師であり、ホスピタルクラウンだった2009（平成21）年、『赤鼻のセンセイ』というドラマのモデルにもなった。自身も、幼いころ、学校を休むたびにさまざまな思いを抱えていたという。子どもたちへの思い、教育の本質に迫る。

●取材・文……………太田美由紀（ライター）

教育は子どもの発達を保障すること

「僕には今、やりたいことが3つあります。1つは、病気の子どもたちに直接関わること。もう1つは、病気の子どもたちにも教育が必要であることや、彼らの学ぶ場所を広げるための啓発活動。そして最後に、後継者を育てることです」

10年前、赤い鼻をつけた院内学級の先生としてドラマのモデルにもなった副島賢和さん。現在は、大学や大学院で、発達心理

学や臨床心理学、病児教育などについての講義を行っている。看護師やPT、OTなど医療関係の学生だけでなく教師を目指す学生にも人気だ。8年間担任をしていた昭和大学病院内「さいかち」学級には、現在も学級心理士スーパーバイザーとして週に一度訪れる。週末には全国を講演で飛び回り、声がかかればクラウン（道化師）として訪問することもある。

その場にあつたスタイルを選んで、必要があればクラウン（道化師）にもなるんです」院内学級は全国に約200学級。その方針は都道府県によって異なり、東京都などでは院内学級が数か所あるものの、基本的には教師がそれぞれの子どもを訪問する、訪問教育という形式が取られている。入院期間はどんどん短くなり、全国平均で10日程度。入院中に教育を受けるには、院内学級にしても訪問教育にしても手続き上は転校する必要があるため、短期間で転校することに抵抗を感じる人も多い。

新春
座談会保健師の業務を効果的・効率的に進める
～統括保健師と行政経営～

- 【出席者】 加藤典子さん（厚生労働省健康局健康課保健指導室長）＝司会
 春山早苗さん（自治医科大学看護学部長、教授）
 真山達志さん（同志社大学政策学部教授）
 林 礼子さん（島根県健康福祉部健康推進課調整監）
 村川実加さん（磐田市健康福祉部健康増進課長）

特集

子どもの自殺を防ぐ ～10代を中心に～

- 10代の自殺の実態 傳 田健三（平松記念病院）
 ●発達障害児と自殺 三上克央（東海大学医学部）
 ●学校保健における自殺対策 向笠章子（広島大学大学院）
 ●10代の自殺について私はこう考える 岩室紳也（ヘルスプロモーション推進センター）
 ●長野県の子どもの自殺対策 藤木秀明（長野県健康福祉部）
 ●足立区の子どもの自殺対策 馬場優子（足立区衛生部）

ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ！ 未定

ピープル 森田真希さん（NPO 法人「地域の寄り合い所 また明日」）

解説 「地域・職域連携推進ガイドライン」について

投稿 1 「『性暴力被害者支援』の特集を読んで」
 岩室紳也（ヘルスプロモーション推進センター）

投稿 2 陸前高田市の「はまってけらいん、かたってけらいん」
 前川明宏（岩手県 県南広域振興局保健福祉環境部・奥州保健所）

※変更になる場合がございますので、ご了承ください。

地 域 保 健
令和元年 11 月号

令和元年 11 月 1 日発行／隔月（奇数月）1 回 1 日発行
 発行人 菅 国典
 制作・発行 〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-29-22
 株式会社 東京法規出版
 振替 00160 - 1 - 371595

【購読の申し込み】 TEL 03 - 5977 - 0300
 FAX 03 - 5977 - 0385
 ウェブ www.chiikihoken.net

【内容の問い合わせ】 TEL 03-5977-0353 E-mail chiikihoken@tkhs.co.jp

◎表紙・本文デザイン＝新海妙子
 ◎印刷・製本＝（株）上野印刷所
 ◎編集長＝須賀健次
 ◎編集員＝松岡康子

本誌に掲載された著作物の
 複写・転載等の許諾権は、
 株式会社東京法規出版が保
 有しています。

バックナンバー紹介

2018 年 7 月号

特集「母子保健と虐待予防の一体的な取り組みに向けて
～子育て世代包括支援センターと市区町村子ども家庭総合支援拠点～」

子育て世代包括支援センターと支援拠点の整備状況および、それらの一体的な運営に向けて動き出した先進事例を紹介する。

2018 年 9 月号

特集「爆走するデータヘルス改革
～2020 年から始まるデータヘルス時代と保健師の仕事～」

2020 年に本格稼働を目指すデータヘルス改革について解説。識者による「鼎談」では同改革が保健師の仕事に与える影響について展望する。

2018 年 11 月号

特集「高齢化するひきこもり」

ひきこもりの平均年齢は年々上昇している。現状と課題、脱出に向けた各地の取り組み、保健師が担うべき役割についてまとめる。

2019 年 1 月号

特集「刑務所と地域との連携 保健師は健康課題を担えるか
～女子受刑者の問題を中心に～」

刑務所にいる人の多くは、必要な支援につながらず、社会から孤立した人々。地域に帰ってくる住民に、保健師はどんな支援をすればよいかまとめる。

2019 年 3 月号

特集「胎児性アルコールスペクトラム障害を防ぐ」

妊婦のアルコール摂取により胎児に影響が出る胎児性アルコールスペクトラム障害（FASD）のわが国における現状と問題点について取り上げる。

特別座談会「地域保健の未来を拓く」
—厚生労働省での経験から

出向・研修生という形で厚生労働省で働く、地方自治体の保健師 5 人が自らの経験と今後の展望について熱く語る。

2019 年 5 月号

特集「新時代「令和」の保健師 8 つの論点」

令和の幕開けにあたり、保健師に関係する 8 つの論点を取り上げて展望を示す。内容は総論および①キャリアパスとキャリアラダー②委託事業③地区担当制と業務分担制④統括保健師⑤多職種連携⑥家庭訪問⑦プレゼンテーション⑧地域共生社会。

2019 年 7 月号

特集「災害時に配慮を要する在宅療養者への支援
～難病等で医療的ケアが必要な人を中心に～」

地震や豪雨などの自然災害が頻発している。災害時に医療的ケアが必要な人に保健師がどのような支援をすればよいかをまとめた。

2019 年 9 月号

特集「性暴力被害者支援 ～現状と課題～」

これまであまり深く語られることがなかった性暴力の被害者支援について、トラウマケア、感染症や妊娠・出産、児童虐待、DV など、保健師が深く関わる部分を中心に取り上げる。

お申し込みは

(株) 東京法規出版 地域保健編集部 FAX : 03-5977-0385

※バックナンバーの価格 (2016 年 3 月号まで) 857 円 + 税 + 送料 154 円
(2016 年 5 月号から) 1,370 円 + 税 + 送料 154 円

『地域保健』購読のご案内

- 年 6 回、隔月〔奇数月〕1 日発行
 - B 5 判、総 100 頁（本文 96 頁、表紙 4 頁）
 - 価 格 1 冊あたり 1,370 円 + 税、送料 154 円
 - 年間購読 《公費前納および個人》7,990 円（税込、送料弊社負担）
 - 年間購読 《公費後納》8,878 円（税込、送料弊社負担）
- ※書店の方は下記にお問い合わせください。

お申し込み

電話 03-5977-0300 FAX 03-5977-0385 ウェブ <http://www.tkhs.co.jp>

災害後も健やかな人生を送るための避難所づくりの要点がわかる！
避難所運営にかかわる自治体関係者、ボランティア団体、すべての人に役立つ必携本

いのちと健康を守る 避難所づくりを活かす 18の視点



好評発売中！

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 ガイドライン | 10 段ボールベッド |
| 2 トイレ | 11 布団干し |
| 3 衛生 | 12 寒冷期 |
| 4 肺炎 | 13 人間関係 |
| 5 母子 | 14 食事 |
| 6 福祉避難所 | 15 集約と移動 |
| 7 エコノミークラス症候群 | 16 在宅被災者 |
| 8 弾性ストッキング | 17 生活再建と法制度 |
| 9 テント | 18 海外の避難所 |

監修：新潟大学医歯学系呼吸循環外科 榛沢和彦

B5判／本文96頁／モノクロ 定価：本体1,500円＋税
ISSN 2424-0826 第49巻 第3号（別冊）

【執筆者一覧】（掲載順）敬称略

榛沢 和彦	新潟大学	浦野 愛	レスキユーストックヤード
室崎 益輝	神戸大学名誉教授	根本 昌宏	日本赤十字北海道大学
田村 圭子	新潟大学	菅原 由美	東北大学
加藤 篤	日本トイレ研究所	辻 一郎	東北大学
中臣 昌広	日本環境衛生センター	笠岡 (岡山) 宣代	国立健康・栄養研究所
中久木康一	東京医科歯科大学	植田 信策	石巻赤十字病院
吉田 穂波	神奈川県保健福祉局	山村 修	福井大学
奥田 博子	国立保健医療科学院	岡本 正	銀座パートナーズ法律事務所
山下 竜一	災害用弾性ストッキング協会	北川 慶子	聖徳大学
草島 進一	オープンジャパン	塩崎 賢明	立命館大学
水谷 嘉浩	Jパックス株式会社	川村 匡由	武蔵野大学名誉教授

災害の巨大化の中で、
避難所のあり方が厳しく問われている。

本書は、避難環境の改善と、
被災者の自立に向けての
強いメッセージになるに違いない。

神戸大学名誉教授
室崎 益輝先生 推薦

発行元：  東京法規出版

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-29-22
TEL：03-5977-0300 FAX：03-5977-0311 <http://www.tkhs.co.jp>